

北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏な状態が続きました。地殻変動観測では長期的に見るとわずかな伸長傾向が認められます。

2 噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、5 日以降時折 96 年南火口列の噴煙が観測されました。噴煙の高さは 30m で弱風・高湿時に観測されたことから、気象による影響と推定されます。

3 地震活動の状況

A 点で基準に達する火山性地震は 1 回で、山頂臨時点で観測されるごく微小な地震を含め少ない状態で推移しました。震源は山頂火口原の浅部（深さ 1~2km）と推定されます。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（A 点）

2002～2003 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
地震回数	0	0	1	0	2	1	0	2	0	1	1	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 調査観測の結果

9 月 2 日に調査観測を実施しました。全体的に熱活動は低い状態が続いており、前回（7 月）の観測と比べて状況に変化はありません。

【昭和 4 年火口】

南側火口壁では引き続き弱い噴気活動が続いていました。96 年主火口の噴気は確認できませんでした。北側火口縁から赤外放射温度計*で測定した火口温度の最高は 42（前回 46）でした。また、赤外熱映像装置*による温度分布でも前回に比べ大きな変化は見られません。

【96 年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。

【その他】

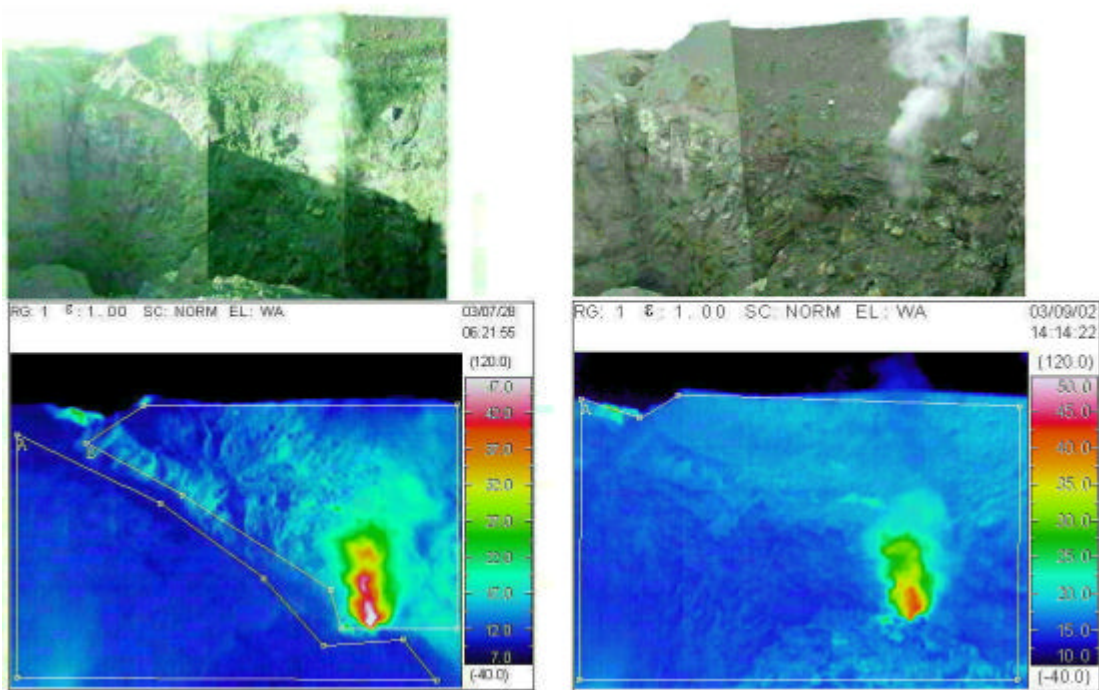
その他の火口や地熱域でも弱い噴気活動が続いていますが、特に変化はありません。



北海道駒ヶ岳山頂火口周辺図

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器で

す。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度（放射率）が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9～1.0 に設定しています。



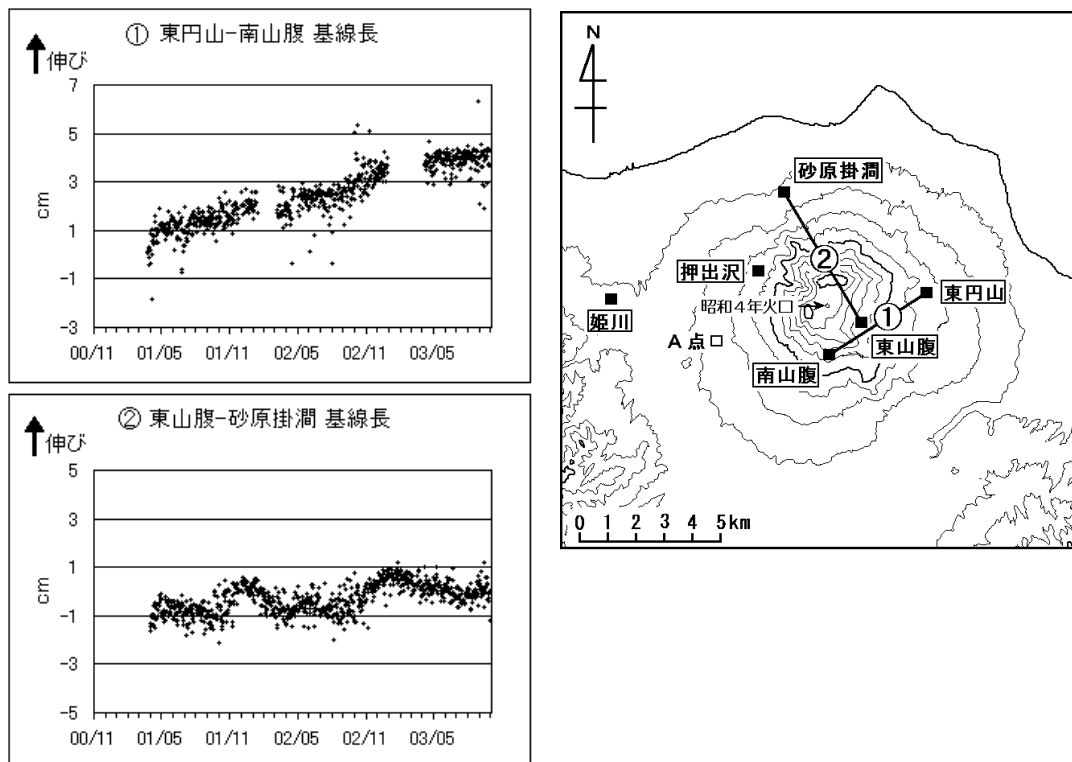
昭和 4 年火口の赤外熱映像（北側火口縁より撮影）

左：2003 年 7 月、右：2003 年 9 月

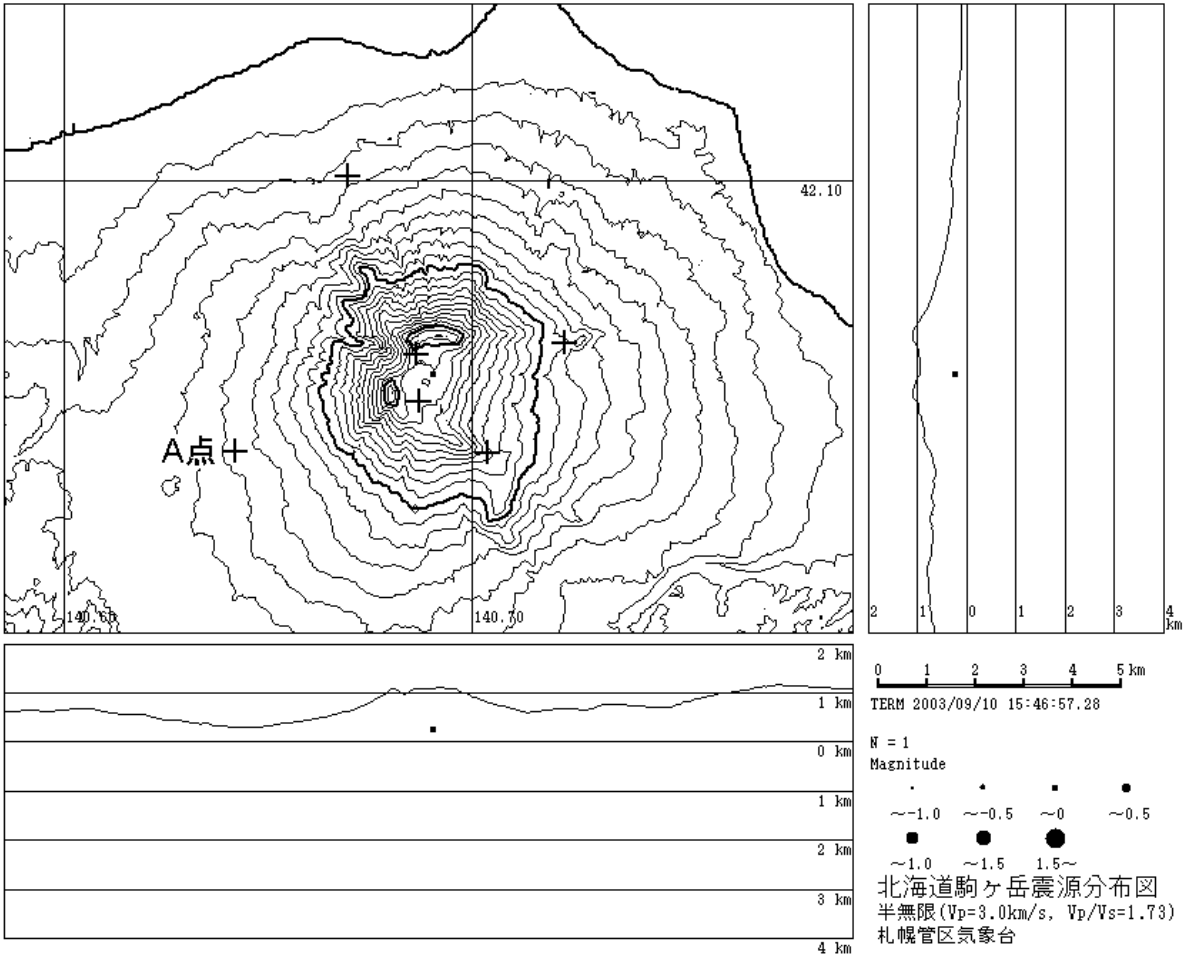
南側火口壁（写真右側）の噴気に対応して熱異常域が見られるが大きな変化はなく、新たな熱異常域も認められません。

5 地殻変動の状況

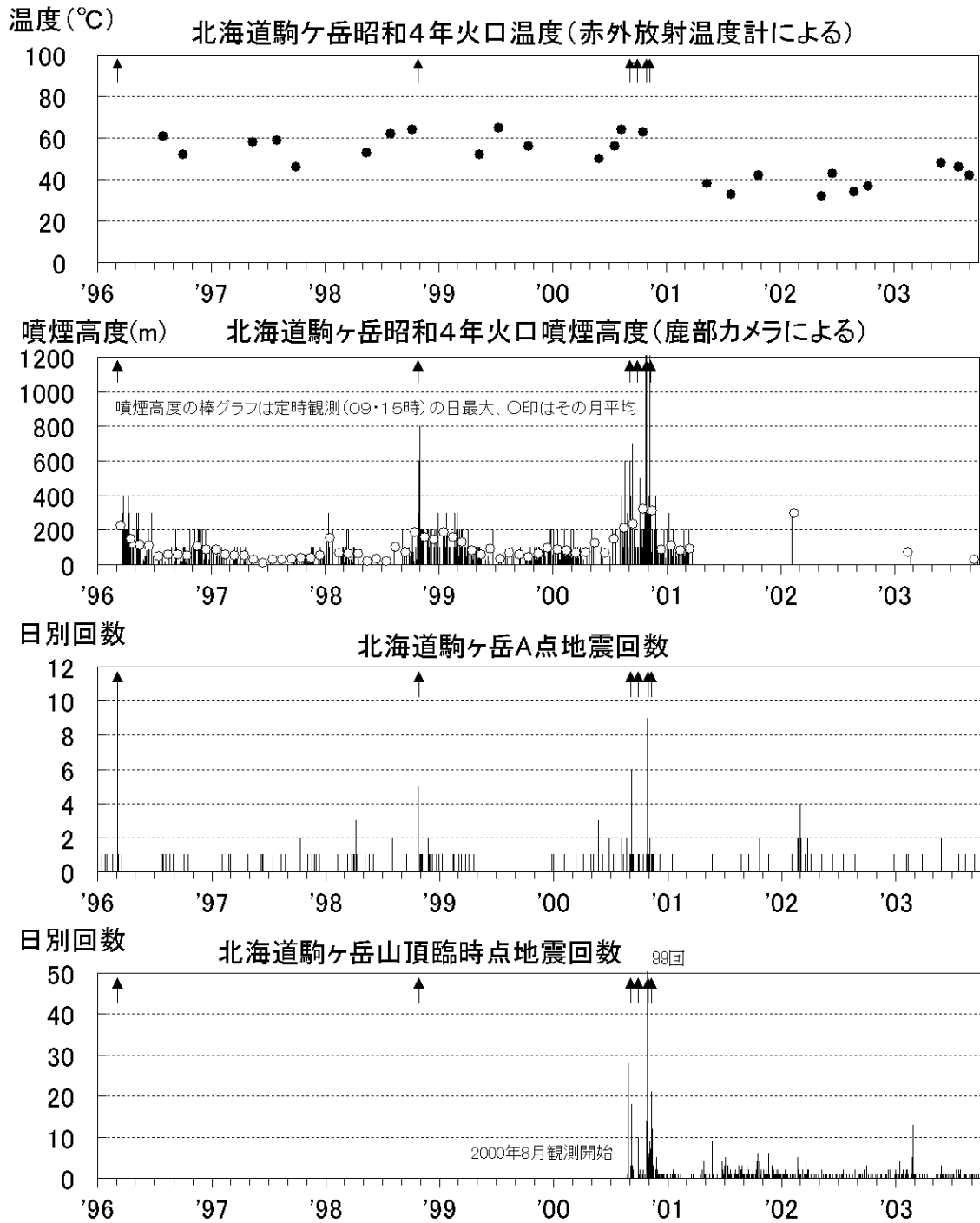
G P S 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が認められます。



北海道駒ヶ岳基線長変化（2001 年 3 月 23 日～2003 年 9 月 30 日）



北海道駒ヶ岳震源分布図(2003年9月1日~9月30日)+印は地震観測点



北海道駒ヶ岳火山活動経過図（日別、1996 年 1 月 1 日～2003 年 9 月 30 日）↑印は噴火